

第3部 ハンディターミナルに関する調査報告

ハンディターミナルは携帯型の特長を活かし、データの発生時点での収集並びに処理ができることから流通、運輸、製造等のあらゆる業種で活用され、業務の省力化・効率化の促進に貢献してきた。

装置の機能に関しては利用者側から各業務に最適な機器の要求があり、装置開発メーカーも利用者の要求を満たすべく携帯性を追求する中で、高い耐環境性能、大画面液晶、大容量メモリー、近距離無線通信機能、広域無線通信機能、通話機能、NFC リーダライタ機能、RFID リーダライタ機能等の搭載が進んでいる。

近年ではハンディターミナルに加えて、スマートフォン、タブレット端末等の携帯端末が業務利用されており、またハンディターミナルの業務範囲も広がりつつある。

2019年度のハンディターミナルの出荷実績は、2018年度と比較して、国内向け出荷では台数で37%増加し、金額では46%増加した。また、輸出では台数で19%減少し、金額では26%減少した。

各カテゴリー別にみると、スキャナー一体型の国内向け出荷は、台数で20%増加し、金額では31%増加した。標準型(※)の国内向け出荷は、台数で120%増加し、金額では86%増加した。

例年、その年度出荷実績と比較した翌年度以降4ヵ年の見通しを、統計参加企業によるアンケート調査結果を基に、国内向け出荷に対して集計を行なっている。しかしながら、今年はCOVID-19（新型コロナウイルス）の影響により業界の先行きが不透明であり、4ヵ年見通しをアンケート依頼することは難しいと判断し、調査を中止した。

※公表によって特定企業の実績値が推定される可能性があるため、2017年度以降の実績は、標準型とノートパッド型を合わせて集計する。また同理由により、輸出分についても標準型とノートパッド型を合わせて集計する。さらに2018年度以降の輸出分は全てのカテゴリーを合わせて集計する。

2018年度より出荷実績および見通しは従来のノートパッド型を標準型に含めて調査、集計する。